

# O

# S

# P

無料

ご自由に  
お取りください

{ OSPREY / SPIRITUAL / PERFORMER }

VOL.16  
February

O.S.P  
動画

▼  
随時  
更新!!



O.S.Pプロスタッフが  
ホームレイクを徹底紙上ガイド

## The Field Guide

～山岡計文@七色貯水池～

二人の新顔プロスタッフが明かす必須ルアー

### 二羽の鶲の眼

2月のカスミ・利根川水系もやっぱり必須アイテム  
北田朋也／本田賢一郎

Keep it  
on the down low!!

—並木敏成が語る  
あのルアーの真実—  
～極寒期のカスミ水系おかげばりで外せないルアー～

### The Kotaro's Maxims

オーバーライドの  
おかげばり使いこなし術

並木敏成&O.S.Pの最新情報はこちら。

並木敏成 ↓

O.S.P ↓



Journal

# THE KOTARO's MAXIMS

アングラーだけでなく、バスにとっても厳しい極寒期。

ハイシーズンのようにバスがルアーに

果敢にアタックすることは少なく

釣行時間の大半は“辛抱の時間”と言ってもおかしくないだろう。しかし、そんな中でも比較的、バスに口を使わせやすいルアーは存在する。

今回ご紹介するメタルバイブ、オーバーライドもそのひとつだ。

そこでここでは今シーズン、新たに追加になった1/8ozおよび3/16ozのオーバーライドを主軸に、おかげで有効な使い方について解説していく。



オーバーライドで  
47.5cm!!



## オーバーライドの おかげで 使いこなし術

タイトに落としたいときはテンションをかけて

「オーバーライドの特徴はスライドフォールなんですけど、護岸の際などにタイトに落としたいとき、このスライドによって離れていくことがあります。そうならないためにも、タイトに攻めるときは軽くテンションをかけて、あえてスライドフォールさせずに落として、リフト&フォールの誘いのみでスライドフォールを活かします。逃げるようなスライドフォールはバイトする引き金になるだけでなく、左右に散って幅広くアピールしてくれる。さらに、糸絡みが少ないこともメリットですね。」



スライドフォールすることでフックがラインを拾ってしまうことが少ない。いわゆる“エビ”になりにくいのもオーバーライドの特徴である

## 軽いところでは小刻みなリフト&フォール

「カスミ水系において、特に冬になると釣れる場所は本当に限られます。しかも多くの人がほかの時期よりも集中して釣りをされるから、プレッシャーはどんどん高まってしまう。そんな中で大きく“ブルブルブル”と強くリフトすると嫌がるバスもいます。また大きく持ち上げればそれだけスライド幅も大きくなり、ストライクゾーンから逃げてしまうことも。小刻みなリフトでも滞空時間の長いスライドフォールをしてくれるので、バイトの間を稼げます。これがストンと直線的に落ちるメタルバイブとオーバーライドとの決定的な違いですね。」



一か所でずっととどまるバスの目の前で、ちらちらちらちらとバスのやる気が出てきて、最終的に口を使ってしまう

## 魅力的なフォールアクションを生むために

「なんといっても、オーバーライドの最大の魅力はスライドフォール。最初に、テンションをかけなければスライドしないと言いましたが、普段はキホン、ラインを緩めてフリーフォールさせること。これでボディを横に倒してヒラッとスライドします。これは滞空時間の長さやイレギュラーに加えて、視覚的に訴えることができるのも大きなメリット。薄っぺらいボディが縦にストンと落ちるのか、ボディ側面を見せながら落ちるのかだと目立つ度合が大きく違います。フラッシング効果が薄れる濁りやローライト時には、チャートブルーバックやパールピンクバックのような発色するカラーがいいですね。」



野池などで遠投して狙う際、スライドフォールするといふとコストしたコースの左右どちら幅広く探ることができます。まっすぐに落ちるメタルバイブでは直線的にしか探れない

## メタルバイブにスレたバスも思わず食う 軽いオーバーライドが釣れるワケ

の王道、メタルバイブ。薄っぺらいボディながらパワフルな動きとフラッシング、そしてスピードフォールによるアピール力ははっきり言って「強い」。しかも一般的な使い方であるリフト&フォールでは、ルアーを持ち上げたときに「バタバタバタ」と大き

「リフト&フォールではボトムにつけるのが基本ですが、中層を“スイスイ”と泳がせることもあります。小魚の群れを見ていると、何匹かがキラッ、キラッヒラを打つことがありますよね。そのイメージです。また、バスが浮いているときはボトムをとるよりも中層で誘いをかけたほうがバスの目線に合うので効果的。根掛かりが激しいときも、ボトムにつけて中層で誘っていきます。必ずしも、着底させなければならないというわけではありません」。



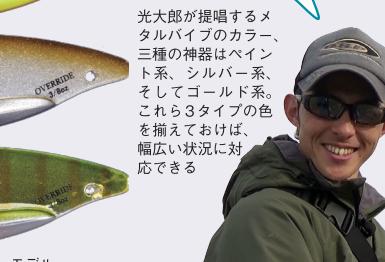
メタルバイブは着底させることが前提のリフト&フォールが絶対ではない。浮いているバスの目線やベイトフィッシュに合わせて中層をスイシとリフト&フォールさせるのも効果的

「朝イチや日没前、さらには曇天雨天などのローライトコンディション下では、チャートブルーバックやパールピンクバックなどのペイントもの。小魚っぽくナチュラルにいくならシルバー系。目立たせたいときには逆鱗を選びますが、ハイプレッシャーな場所ではフラッシングを抑えたスティールシャッドや寒鰯は効くと感じます。濁った水の中でのフラッシングカラーはゴールド系で、スポーツレッドとグリーンギルをよく使います。つまりペイント系、シルバー系、そして黒金系がメタルバイブの必須カラー、三種の神器です。」



この三種の神器  
オススメです!!

光大郎が提唱するメタルバイブのカラー、三種の神器はペイント系、シルバー系、そしてゴールド系。これら3タイプの色を揃えておけば、幅広い状況に対応できる



カラーは大きく3タイプあればいい

く水を攪拌する。ひと昔前であればこの特徴を最大限に生かした使い方でバスを手にすることはできたかもしれない。しかし先述した通り「冬の王道」というだけあって多くのアングラーがこの時期、メタルバイブを使うようになればバスも当然、スレてくる。誘い方に違いを持たせる、バスのレンジに合わせる、そして使用するウエイトやボディサイズも最適なものを選ぶなど、そのときどきに順応していないと、バスをキャッチすることはほとんど不可能。そんな状況を打破してくれるのが、今シーズン、新たに加わった1/8オンスおよび3/16オンスといった軽いウエイトのラインナップである。「小さくてハイアピールなルアーはよく釣れます。小さくて気づかれにくいことを、動きや波動の強さで補う。これは本当に、極寒期の心強い味方です！」

## 軽いメタルバイブにはPEラインがおすすめ

「3.5~5gクラスのメタルバイブはスピニングタックルのほうが扱いやすくなりますが、その場合、ラインは断然PEラインがおすすめ!! 0.6~0.8号クラスの細さでも強度に優ることはもちろんのこと、ほぼ伸びなく比重が軽いので、小刻みなリフト&フォールでも機敏に動き出し、しっかり跳ね上がってくれる。細かな振動も明確に感じられますし、この感覚に慣れてしまうともう戻れません。このとき、できればリーダーを入れることをおすすめします。ボクはハリス用フローラルカーボンの1.5~2号をおよそ70~80cmぐらいで、これをFGノットで結束します。硬めのフローラルをリーダーに入れることでラインがフックに絡まることが減りますし、絡まてもほどきやすいですよ。」



スピニングタックルはPEラインにフローラルのリーダーをセット。【参考データ】メインライン：PEバフォーマンスLD+Si 0.6号／リーダー：タフロンZα 2号（エサ釣り用のハリス）

「メタルバイブの釣りとは切っても切れないのが根掛かり。根掛かり回収機は必須です。が… ボクは根掛かりしてもすぐには回収機を投入しません。軽く搔って外すように心掛けます。しつこく搔ってやっと外れることもけっこうあるんですよ。で、ボロっと外れた次のフォールで食わせることを狙っている。根掛かりするということは、そこに沈み物があるということ。そこにバスがいても、回収機を入れてガチャガチャやったら潰してしまいますからね。回収機を投じるのはその後。実は元旦の初バスもそれで釣れました。」



恒例の元旦釣行でキャッチした一匹は、根掛かりが外れた後のバイトだった

メタルバイブの釣りは、根掛かりとの勝負であるといって過言ではない。無駄なロストをしないためにも、根掛かり回収機は必ず携行したい（写真：ルアーキャッチャー／DAIWA）

item オーバーライド

### 消波ブロックの穴でリフト&フォール。

今回は2月のカスミ水系でオススメのルアーを紹介させていただきます。私がオススメするルアーはオーバーライドです。このルアーのいいところは泳ぎ出しのよさと、スライドフォールにあります。私の場合、越冬場となる消波ブロックの穴の中にいるバスをオーバーライドを使って狙っていきます。使い方はリフト&フォール。20~30cmぐらいリフトし、フォールさせて着底したら止める。ちなみに私は1~3秒ほど止めることがあります。フーリル時と、このフオールを見て寄ってきたバスに次のリフトで、ともにリアクションバイトを誘発することがで

きるためです。ウエイトとカラーの使い分けですが、私はペイトフィネスタッフルで3/16ozを中心(写真は3/8oz)、反応がない場合はフォールスピードを速くするために1/4ozへ重くしたり、1/8ozへサイズを小さく、軽くしたりして使い分けています。カラーは、逆鱗が好きでよく使っていますが、濁りが強いときはコスマブラックをチョイス。バスの反応や水質によって、これらのカラーを使っています。寒さの厳しい時期の一匹を、ぜひ! オーバーライドで狙ってみてください!!



item ダンク

### 探す、誘う、食わせるシャッド。

厳寒期を迎える2月の利根川水系でのおすすめルアーをご紹介させていただきます。この時期キーになるのがブレイク絡みのテトラやハードボトムです。冬でも回遊性の高い利根川水系のバスは、タイダルや天候などで広大なエリアから「探す」作業が必要です。中でもブレイクに隣接した消波ブロックやハードボトムはカレントを避けることができ、ベイトの捕食のしやすさからバスの滞在時間も長いため、出会える確率が高いエリアです。そこで活躍してくれるのがダンクです。ブレイクを狙う際に必要不可欠な、狙う水深へ



の到達速度の速さ、スナッグルレス性の高さ、そして0.5m~4.0mという広いレンジで使用できるのは計り知れないアドバンテージです。また厳寒期特有の掛か

らないショートバイトも、スリムかつコンパクトなボディ形状により確実にフックアップできることもダンクを選択する理由です。アクションはキャスト後、ボトムにコンタクトするまで潜行させ、ストップ＆ゴーをボトム付近で繰り返すことを基本に、消波ブロックのトップやハードボトムの張り出しでのロングステイ、または軽くトゥイッチを入れるとよりバイトが得られます。厳寒期の釣行にぜひご活用ください。

### 2月のカスミ・利根川水系おかげばり必須アイテム



### 自分の釣り愛を理解してもらい、家族を大切にすること。

みなさんこんにちは! O.S.Pプロスタッフのジェイソン・フェリスです。正直言いましてバシチのボクから釣りに行くために家族に何をしているかなんて、言えた身分ではありますね。(笑)  
それでもボクの経験上、一番大切なことは手に(家族を含む)、自分が異常なまでに釣りを愛していること、それは時として家族や自分のこと以上に魚を愛してしまっていることを、家庭を作る前に理解してもらうことです(笑)  
このボクの魚への愛を理解してくれるのは世界共通で、同じ魚を愛する釣りガールしかいません。なので最近、女性アングラーハーベースが増えています。釣りに理解のある女性も増えていることは我々男性にとって大きなチャンスです!(笑)

実際、ボクは釣りを通して今の奥さんと出会いました。デーツはもっぱら釣りだけでしたが、文句ひとつ言われませんでした。結婚した後もボクたちアングラーハーベースは家族を大切にしているからこそ、家族の理解を得て釣りに行くことができるのです。例え釣りが嫌いな家族を持つ道楽だけではなく、釣りに行く時間についてもわかつてくれるのです。余計な説明も不要です。ボクたちアングラーハーベースは家族を大切にしている力です。非常に高すぎるものは無理ですが、それでは、いいフィッシングライフを!!

全国のお父さんアングラーハーベース様。釣りに行きたくても、自由に行くことかないませんよね? それは釣り業界人と同じだから釣りに行く前には必ず、「こんなこと」としているのです……

O.S.Pプロスタッフ ジェイソン・フェリスさんの場合

あなたなら、どうする? どうしてる?

PRESENT!

✉ event@o-s-p.net

応募方法\_希望者はメールにて、件名「O.S.P JOURNAL プレゼント係」とし、以下の項目にお答えください。

並木敏成おすすめの  
極寒おかげばりルアーセット

- ① このパンフレットをどちらのお店で手にしましたか
- ② このパンフレットの率直な感想
- ③ このパンフレットに求める情報
- ④ 釣り歴とホームグラウンド
- ⑤ O.S.Pで好きなルアー

以上5点の回答に加え、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、ご応募ください。締切は2017年2月28日(火)。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

個人情報について\_ご提供いただきました個人情報は厳重に管理し、賞品の抽選、発送および当選者への連絡に使用します。また、提供者の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはございません(法令等により開示を求められた場合を除く)

オリキンの

ブリッツヘビーヒッター!?



ヒミツ  
・  
の  
小部屋

ゴロゴロと響く重低音が特徴的なダイバジンヘビーヒッターですが、濁ったり、波立ったりしたとき、その存在がかき消されてしまいます。特に水量の多い薄濁った流れ込みでは中層をハイアピールできるモノが必要…そこでこのゴロゴロ音を生かしつつ、ちょっと沈ませたらいいんじゃないかな、と。リップを寝かせる分だけその根元を削り、空いた隙間にプラリベアを充填。ダブルフック仕様で根掛かりも回避。存在感バッチャリのサブサーフエスクランク、というかヘビーヒッターブリッツかな…(笑)



# KEED IT ON THE DOWN LOW

## 極寒期のカスミ水系おかっぱりで外せない シャッド、メタルパイプ、ダウンショット

いよいよ極寒期がやってきたね。でも廳することなかれ。この時期でもバスをキャッチしようと思えば、その方法はいくつかある。その中でもカスミ水系のおかっぱりという条件下で、自分なりに選んだおすすめのルアーとその使い方を紹介しよう。

ここでは大きく分けて3つ+αの釣りがある。ひとつはシャッド系。次にメタルパイプ。そして最後はダウンショット。使いどころと使い方を理解しておけば、これまでよりも真冬に釣れる確率は格段に上がるだろう。ぜひ参考にしてほしい。

## 名だたるシャッドは数あれど 群を抜く際立った性能を持つダンク

まずはシャッド。O.S.Pではダンクとハイカットの2タイプをラインナップしているが、極寒期は迷わずダンクをチョイス。名作と評されるシャッドは数多くあるが、ダンクはそれらと一線を画す際立った性能を持っているのはすでに存じだろう。しかし、あえてここでもう一度、その“際立った性能”について、解説させてもらおう。

ダンクは急角度で潜行し、ボトムストラクチャーをなめるようになおかつ引っ掛けられることなく、超スローに。この性能は、

他のシャッドの群を抜いていると自負している。

基本的にはサスペンドモデルを使うのだが、暖かい日や逆にバスが上ずる雨の日、または根掛かりが多い場所ではフローティングモデルをチョイス。なぜ、こういった日なのか。理由は明白。通常、ゴロタや消波ブロックなどの凹凸がある場所で使うのがこの時期の定番で、その起伏を小突きながら引けるのがダンクなのだが、暖かい日は水温も上がり、雨の日は先述したとおり、バスが水路内の護岸などに浮くことがある。その、壁にサスペンドしているバスのレンジに合わせて泳がせるのだ。ときに水深2mのエリアで、水面下50cm~1m以内にバスが浮いていることもあるため、潜らせたあとリトリーブを止めて浮かせる。こうした釣り方ができるのは、フローティングモデルならではだ。根掛かりが多い場所での使用は言うまでもないだろう。根掛かる前にスローフローティング気味に浮かせてかわすことができるからである。

もちろんハイカットシリーズもありだが、エリアが全体的に浅ければ、もしくはバスの活性がやや高めであればこちらにスイッチ。サスペンドとフローティング、どちらを使うかはダンクでの使い分けに準じてほしい。

使い方についてだが、カスミ水系のステインからマッディウォータ

ーでは、ポンプリトリーブが王道。引っ掛けりのキツくないところであれば50cm~1mぐらい引いたら止める。この動作の繰り返し。起伏があるところではロッドティップを5~30cm程度という、ワームをズル引きのような小刻みな移動で。10cmぐらい引くとリップがボトムの凹凸を拾うので、ちょっと当てて止める。もみほぐすようなイメージで、リップラップや消波ブロックをなめるようにトレース。それを抜けたところや、起伏の頂点では止めることを忘れずに。キモはポーズにあり!

フローティングについてもさっきも言ったとおり、サスペンドしているバスや根掛けりをかわすために浮かせることが重要になるのだが、リトリーブを止める時間はサスペンドよりも短い。長く止めると浮きすぎてレンジを外してしまう恐れがあるからだ。浮かせる範囲は10cmから長くとも30cmぐらいと考えると、止める時間はせいぜい1~3秒ぐらいではないだろうか。

ちなみにサスペンドモデルの場合、普通は3秒、長くて5秒ぐらい止めることがある。バスの目の前で見せるために止めているイメージだ。ただし毎回、数十センチ引いて3秒止める、なんてやっていたら時間がいくらあっても足りない。コンフィデンスのあるコースや、何かが沈んでいて「釣れそう」と思うようなところでこそ、スローに、丁寧に引くといいだろう。このとき、リーリングというよりはロッドワークで動かす。キャロライナリグのズル引きのように、ロッドティップを斜め下に垂らすのが基本姿勢。根掛けりが多くたり、そのレンジに対して潜りすぎていると感じるときはロッドをやや斜め上に構えて潜行深度をコントロールすること。

## エサ的な動きでは口を使わないバスに リアクションバイトを誘発するメタルパイプ

次にメタルパイプ。今シーズン、新たに1/8オンスと3/16オンスが加わったことで全5サイズがラインナップしたオーバーライドを選ぶのは言わずもがな。カスミ水系のおかっぱりに限って言うと、1/8オンス、3/16オンス、そして1/4オンスが主軸となるだろう。

この主軸となるウェイトであればベイトフィネス系のタックルかスピニング。消波ブロックの際や護岸の壁、そして水門など、まわりより少しでも深くなっているところや障害物があるところが狙い目となる。本来はダウンショットなどで丁寧に釣っていくスポットではあるが、そういったエサ的な動きにも口を使わないほどタフな状況、もしくは低水温下ではオーバーライドのフラッシングを伴ったシャクリアクションに思わず口を開けてしまうバスも多い。

使い方はリフト&フォールで、必ず毎回着底させること。ボトムについたらすぐに上げるというよりも、ワンテンポ置く。ここぞという場



1/8オンス、3/16オンス、そして1/4オンスといったサイズがメインになる。まわりより少しでも深くなっているところや、何かしら障害物があるところが狙い目。着底後、ワンテンポ置くことが人と差がつく釣果を生み出す秘訣

所では3~5秒ほど止めてからリフトすることもある。ボトムに置いてあるメタルパイプをバスがついぱむこともあるし、タフなときこそその傾向は顕著。またボトムに置くことで底の泥と同化して、バスの視界からオーバーライドが消えることがある。スレているバスほど、見えなくなったところからリフトによってパッと姿を現すこの瞬間のリアクションは非常に効く。長めのポーズ後のワンアクションで食う、もしくは食っていた、なんてことがあり、超メジャーな水門まわりなどでぜひお試しいただきたいワザである。

すでにお伝えしたことがあるが、ダブルフックをやや広げて使用することで、フッキング率およびランディング率が上がる。こちらも、ぜひ。

## 絶対に外すことのできないライトリグと 近年注目のミノーイングについても解説

あとはダウンショットリグ。ワーム的アプローチとなると、真っ先に頭に浮かぶのがこのリグだ。消波ブロックの穴の中など、太めのラインでないとバスを引き出せないようなところでは8~12lbフロロのベイトフィネスタックルで、シンカーは3.5~7gぐらい。タフな場所やここ一番という勝負どころ、もしくは何をやってもバイトが得られないならば、スピニングタックルでラインはフロロの4~5lb。根掛けりがきついところでは、シンカーは1/16オンスと軽め。リアクション的に素早いフォール後にリーダー分ダートさせるときは1/8オンスぐらいまで、4lbで使うことがある。



真冬寄りのタフなコンディション下で選びたい、ドライブクローバーインチ。カラーについて、並木はエビミソブラックをチョイス



2.5インチ、および3.1インチを使用。バスがベイトフィッシュを意識し、横の動きに反応がいいときはこれ。カラーはネオンワカサギ



ドライブクローやHPシャッドテールでの反応が悪いときはドライブシュリンプ3インチor 4インチ。カラーはダークシナモン・ブルー&ペッパー

ワームの使い分けについてだが、ここでは3タイプを用意。真冬寄りのタフコンディション下ではドライブクローの2インチ。バスがベイトを追い出しているようであれば横の動きを意識して、HPシャッドテールの2.5インチか3.1インチ。そのどちらか迷うときはドライブシュリンプ3インチ、4インチもありだろう。

最後に、近年注目の11cmクラスのヴァルナ、および13cmクラスのルドラといった大きめのミノーを使った釣りについても言及しておこう。

この釣りは日ムラがあり、ややローライトコンディションであるとか、風がある日(風によってベイトフィッシュが吹き寄せられるため)といった特殊条件が重なることで、ときとして爆発する。これまで春だけ有効と思われていたが、冬でもタイミングや天候次第では結果が出ているので、ぜひ試してみてほしい。

ミノーゲームのエリアについてはシャローフラット(ミオ筋やチャンネルが近くにあることが前提)や、リップラップを釣るわけだが、ワカサギなどのベイトの存在がキモになる。ベイトが接岸しているときはアグレッシブな大型のバスが釣れることこそ、この釣りの最大の魅力である。カツブリやヘラサギなどの小魚を捕食する鳥類がいることが、エリア選びのひとつの目安になるので覚えておいてほしい。

本文中でも解説したおり、ローライトコンディションや風が吹いている日に試したい、11cmもしくは13cmクラスのミノーパター。こちらはデビューして間もなく11cmミノーの代表格の座を射止めたヴァルナ110



メインで使用するのはルドルラMSF、ミディアムスロー フローティングの名が表すように、根掛けりを浮かせかわすことができる。引っ掛けることが多いリップラップなどのハードボトムでは、こちらをチョイスしたい



ド定番の釣りから  
近年注目のメソッドまで  
幅広いスタイルを  
試してみよう!



# O.S.Pプロスタッフがメジャー・フィールドを紙上ガイド Field Guide



案内人はこの人

やまとおかかすみ  
山岡計文

池原ダムおよび七色ダムを有する下北山村で生まれ育った、ローカル中のローカルアングラー。ミストやサイトフィッシング得意とし、誰もが「釣れない」と嘆く中でも確実にバスを手にすることからついたニックネームは“リビングレジェンド”。JB TOP50に参戦。池原・七色でガイドを行い、下北山村議会議員とい一面も



①北山川ガレ場

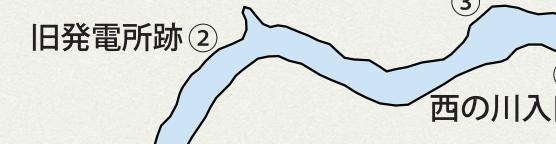
②旧発電所跡

七色貯水池を象徴するスポット。この建造物の対岸、下流に向かって右に大きく曲がっている張り出しが沖まで伸びており、ここが狙い目。この岬状の張り出しがメインチャンネルと接続する部分は、七色貯水池の冬の定番エリア。最深部で水深20m前後



③Ts-ON前

貯水池ができる前の集落が沈んでおり、当時の石垣がボトムに残っている。水深10~11mぐらいにあり、そこから2~3m落ちる。ヘビダンなどでチェック



旧発電所跡②

放水口下流北山川ガレ場

⑮スロープロクマル下流  
アウトサイド

北山川上流域ではじめて水深10mを超えるエリアがここ。岩もゴロゴロと入っており、真冬でも活性の高いバスが溜まっていることも。エリア①でバスの反応がないとき、ここまで上がっていることも考えられる

⑮スロープロクマル下流  
アウトサイド

スロープ&レンタルボート ロクマル

七色貯水池の本流、北山川筋の上流エリアに位置するレンタルボート店。ニーズに応じて多彩なタイプのレンタルボートを揃えているだけでなく、スロープも兼備しており、マイボートでのエントリーも可能。毎日更新される釣果情報のブログは必見。釣行前の参考に、ぜひご一読いただきたい。  
<http://www.slope60.com/>

## Vol. 6 奈良県・七色貯水池

リザーバー天国と称される紀伊半島において、池原貯水池と双璧をなす七色貯水池が今回のフィールド。クリアレイクゆえ、サイトフィッシングが主たる戦略ではあるが、真冬のこの時期はディープがメイン。朝夕のフィーディングタイムは表層でのゲームがおもしろい時期である。



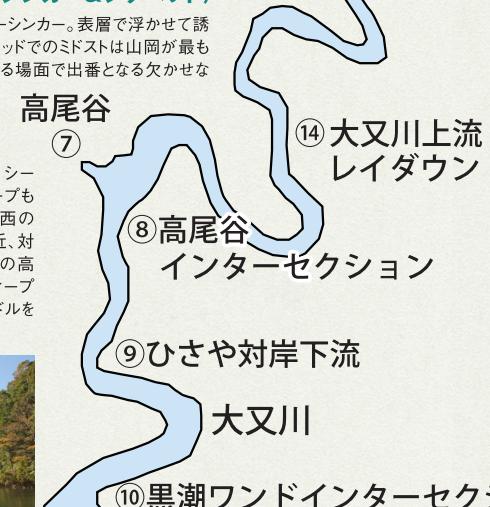
《七色おすすめルアー①》

マイラーミノー(ノーシンカー&ジグヘッド)

フィーディングタイムにはノーシンカー。表層で浮かせて誘う“ピクピク”で使用。ジグヘッドでのミッドストは山岡が最も得意とするスタイル。あらゆる場面で出番となる欠かせないアイテムだ

④西の川入口

北山川と西の川の合流点。シーズンを通してシャローもディープも魚影が濃い。橋の上流側、西の川に入った側の張り出し付近、対岸、そして橋脚まわりと実績の高いスポットが点在。日中はディープメイン、夕方はシャローからミドルを意識した攻めを



ジグヘッドによるミッドストや表層ピクピクでの食わせなど、さまざまな食わせが利くマイラーミニーは山岡のフェイバリットであり欠かすことのできない存在

⑤西の川  
インター  
セクション  
下流崩落跡

⑮西之川インター  
セクション下流崩落跡

斜面に生えていた木々が、かけ崩れによって水中に沈んでいるエリア。水深18mぐらいまで木が折り重なって沈んでおり、自然とバスも集まってくる。こういったスポットが湖内にいくつもあるので要チェック!



《七色おすすめルアー②》

ドライブスティック(フリリゲ)

シンカーが先に沈んだ後、ダートしながらワームが沈む。このイレギュラーな動きでアクトショナーバイトを誘発する韓国発祥のスタイル



⑦高尾谷

エリア①や⑯と同じ条件で、こちらは大又川で見ると上流から下ってきて最初のディープ。ここまで13~14mだった水深が、ここにきて16~18mに落ちる。大又川ではこのエリアから釣り下していく基準になる



⑧高尾谷  
インターフェクション

高尾谷からの水がぶつかるインターフェクション部。バンクがチャンネルラインにかかる水深12mラインでバイトを得ることにも成功。北山川の反応が悪いときは、大又川にスイッチしてみるのも得策

⑯大又川上流レイダウン

上流側にサンドバーがあるストレッチのアウトサイド。岸際の木が切り倒されて、バンクにはレイダウンが続く。冬の午後、水温上昇のタイミングでこのレイダウンを伝ってシャローにバスが上ってくる。昼過ぎから夕方にかけてはシャローからミドルがおもしろい



⑨ひさや対岸下流

レンタルボートひさやの下流に位置するインサイドの張り出し。このまわりに立ち木が残っており、かつ流れが岩盤に当たって渦を巻くような反転流ができる。この反転流によって集まつた流水やゴミが沈んでいる。水深10~18mまで、非常に変化に富んだスポット



このギル、デカすぎ!  
びっくりしましたわ~



ひたくるようなバイトの正体は、目を見張るビッグサイズのブルーギル。これには七色貯水池のリビングレジンドも驚きを隠せなかつたようだ

⑩黒潮ワンド  
インターフェクション張り出し

大又川と黒潮ワンドの合流点にある、大きく張り出したインサイドの岬。この沖はフラットな地形が続いている。インサイドでは根掛かりに強いO3ハンツは水中の枝にラインを引っ掛け、ほぼ水平姿勢で誘えるのです

⑪北山川下流崩落跡

本流で最も規模が大きな崩落跡がここ。エリア⑤よりも深いところまで木や岩が沈んでおり、その水深はおよそ20mぐらいまで。こういったエリアでは根掛かりに強いO3ハンツは水中の枝にラインを引っ掛け、ほぼ水平姿勢で誘えるのです



⑬ダムサイト上流ワンド  
(別称:世界のワンド)

ダムサイト手前にあるブイまでが、釣りができるエリア。このワンド状のくぼみには台風などの大雨で流れてきた流木が沈んでおり、ここに冬場、バスが集まる。別称の由来はこれらの動画をチェック!!  
<https://youtu.be/mCoFQcOb8Ag>

《七色おすすめルアー③》

i-Waver SSS

マイラーミニーのピクピクと使い分け、対フィーディングバス用。超スローに引いてくるだけOK。山岡のおすすめカラーは視認性と食わせに長けるT.N.シークレット小魚



朝イチ、フィーディングでシャローに上がり、その後で個体のバイトを得た。真冬でもボイルしているようなバスにはi-Waverが絶大な効果を発揮する



《七色おすすめルアー④》

HPシャッドテール2.5インチ

ディープを広範囲に探るときはキャロ(七色のディープ攻略の定番)、ピンスポットで食わせるときはダウンショットと、何かと出番が多いアイテム。キャロではボトムの変化をなるべく丁寧にトレースすること

HPシャッドテールのダウンショットで手にした一匹。カラーは水温が下がって水がクリアアップしたときに有効なゴーストシュリンプ。山岡のフェイバリット



サイズこそなかなか伸びないものの、バスが溜まっているスポットを見つけ出せば真冬の数釣りも難しくない。キャロで広範囲を探り、ピンスポットはタウショット。シャローカバーの釣りもタイミングによっては生きる、表層の釣りもおもしろい。それが冬の七色貯水池の魅力!



バスが固まるディープでは  
真冬の連発劇だって  
あります!!

いよいよ、一年で最も厳しいシーズンが到来。最低水温を記録し、すべての生命が姿を消してしまったかのような錯覚に陥ることもなくないだろう。そんな状況下でも、七色貯水池でバスを確実に手にできるスポットを、O.S.Pプロスタッフの山岡計文が紹介する。「2月の七色では、水温の低下とともにバスは徐々に水深のある下流部へと下ってきます。したがってまずは上流部から見て、最初のディープに当たるエリアから釣り下っていくのがセオリー。ただし、ディープだけにとらわれてはいけません。

たとえ真冬でも、朝夕のフィーディングタイムは表層で反応を得られることも少なくありません。i-Waverやマイラーミニーのピクピクなどは、忘れてはならないアイテムです

ひと言でディープといっても、単純に深ければいいというものではない。岩があったり、オダ状の沈んだ枝など、何かしらの変化があることが必須条件となることを覚えておこう。

## 七色貯水池のシーズナルパターン ディープを主軸に、朝夕は表層ゲームも